

安倍朝臣虫麻呂の歌一首

六六五番

向かひ居て 見れども飽かぬ 我妹子に 立ち離  
れ行かむ たづき知らずも

大伴坂上郎女の歌二首

六六六番

相見ぬは 幾久さにも あらなくに ここたく我  
は 恋ひつつもあるか

六六七番

恋ひ恋ひて 逢ひたるものを 月しあれば 夜は  
こもるらむ しましはあり待て

厚見王の歌一首

六六八番

朝に日に 色付く山の 白雲の 思ひ過ぐべき  
君にあらなくに